事例22　　耕作放棄が進んでいない集落での早めの対応

横浜町　大豆田２

協定面積　田84ha　　協定参加者数120人

○横浜町は菜の花の作付け面積が日本一となっています。なかでも大豆田集落は「菜の花フェスティバル」のメイン会場であり、春には大勢の観光客の目を楽しませています。ほ場整備が進んでいるため、現在のところ耕作放棄地はほとんどありません。しかし、高齢化は確実に進んでいるため、今から農地保全に取り組むためにこの制度を活用しようということになりました。

○協定を締結する際、土地改良区と協力し、対象農家に参加を呼びかけました。事務量も多いことから土地改良区の事務員を書記・会計とすることにより、活動日程の通知や会計事務を行い、農家への負担を軽減しています。

一面の菜の花畑

○集落協定の規模が大きいことから、巨額となった共同活動費を利用し、水路や農道の補修工事や「菜の花フェスティバル」開催時期に合わせた地域の清掃活動等を予定しています。耕作放棄が進んでいない今だからこそチャンスととらえて、今後も交付金の有効な活用方法を検討していきます。